

☆次世代への社会づくり

●平成29年12月議会

\*一般質問

一、蒲郡教育白書について

問 自然災害時の学校の対応はいかがか

答 地域の実情に応じ「学校安全マニュアル」が作成され、登下校時、在校時など具体的な対応が決められています。訓練、指導、保護者への情報提供も行っています。

問 不審者対策はいかがか

答 学級指導、全体指導で自分の身を守ることを教えています。メールの一斉配信で保護者、地域へ情報提供をしています。

問 交通安全はどのようなか

答 登下校中の事故は4件です。自転車マナーの向上に取り組んでおり、安

全意識の向上をはかっています。歩車分離式信号機は有効だと考えます。

ハード面の改善は「蒲郡市通学路交通安全プログラム」から関係機関と連携しています。

問 いじめと相談対策はどのようになっているか

答 いじめの認知件数は小学91件、解消率86%、中学62件、解消率89%。子どもへの教育相談、いじめや悩みの調査も行っています。養護教員はもちろん、スクールカウンセラー、心の相談員を配置しています。

問 生活指導の成果を伺う

答 白書の調査では子どもの自己肯定感が少しずつ高まっています。学習調査では「自分に良いとこ

ろがあるか」との問いに小学77%、中学74%があると答えています。これは全国平均より上です。

問 スマホなど情報端末の考え方はいかがか

答 上手に付き合う方法を学び、活用することが必要と考えます。子どもだけでなく、教職員、保護者を対象にした学びの場も設定しています。

問 一学級の人数を白書のアンケートでは子ども、教職員、保護者ともに現状を肯定しているが、教育委員会はその効果をどう考えるか

答 本市では35人以下学級を行うため、市費負担で14人の教員を配置しています。30人以下学級は小学で90%、中学で49%で

す。きめ細かな指導、支援が実現しています。

問 ICT導入、遊具設置やトイレの様式化はどうか

答 現在「ICT教育推進計画」を検討しています。遊具は5年計画を立て、今年は竹島、蒲北、中央、形北に設置しました。トイレの様式化も順次進めています。

問 外部コーチを導入する部活動など教員の多忙化解消について伺う

答 部活動の教育的意義は高いと考えますが教員の多忙化の一因でもあり、地域や家庭と問題を共有していく必要性を感じます。多忙化解消には業務の見直し、ICTの活用や校務支援システムの導

入など多角的に取り組みます。

問 保健業務充実への取り組みはいかがか

答 養護教諭は子どもの身の健康対応で不在にはできない状況で、優先事項だと考えます。養護教諭支援員の配置を検討しています。

**\*子どもたちの活躍**

**①名鉄電車存続応援**

11月12日、廃止が心配されている名鉄蒲郡線を応援するため蒲郡や西尾の中学生が意見発表をしました。

利用者には特典を付与するなど政策的な意見や、通学が困難になるなど直接的な訴えがありました。

一度消滅すれば、次の世代での回復は困難になりました。

す。私たち世代の責任として存続させなければなりません。



乗って残そう名鉄蒲郡線

**②小中学校音楽祭**

11月18日、市内7中学校の合唱コンクールをへて代表7クラスと13小学校の代表7グループが参加しました。

中学校では各クラスとも自分たちで混成三部合唱を仕上げていきます。歌声はもちろん指揮者の表現力や伴奏者による下支えも注目されます。



**③災害避難訓練**



11月19日、今回で3回目となる拾石町地区避難訓練が行われました。

避難先は愛知工科大学です。避難者名簿の管理や避難所生活訓練も行われました。

重要なことは自分たちで避難経路を設定し、そこを歩くことで問題点をあぶり

出しているところですが。また例年、小中学生の参加があることです。現実には即した訓練ができていないと、高く評価します。

④スピーチコンテスト



国際交流協会の多文化共生部会は毎年外国人による日本語スピーチコンテストを行っています。

11月19日には8回目が開催されました。小中学生で13名、高校生以上で3名の参加がありました。

蒲郡の外国人登録者数は約2700名です。リーマンショック以前より200名ほど増えました。

日本人も外国人も互いの文化を認め合い、これまでに以上に積極的に融和を図っていかねばならないと考えます。

彼らに地域活動への参加をお願いすると同時に、情報提供にも努めなければなりません。

平成27年には市役所に外国人相談窓口が設置され、本年29年には塩津中学校に就学前クラス(プレスクール)が設置されました。外国人の人口比重が高ま

ることと日本人の高齢化が進むことで、国際交流協会の役割はますます重要になってまいります。

\* 出来事

①247バイパス開通



11月25日、国道247号バイパスが全線開通しました。

西浦、形原、塩津方面か

ら蒲郡市街を通らず直接、市民病院やラグーナテンボス、豊橋に向かうことができます。

この道路は昭和36年に計画決定されてから56年を経てついに全線開通に至りました。

計画では全線4車線となっており、次は鹿島区域の4車線化が強く求められています。

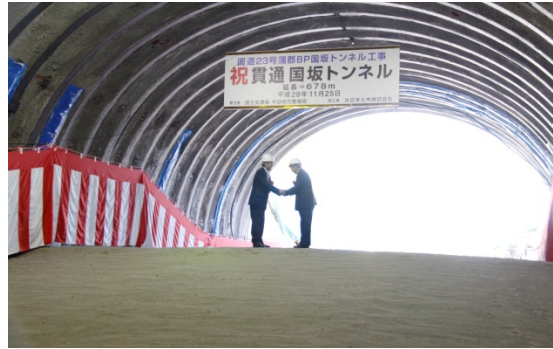
②23号国坂トンネル貫通

11月25日、国道23号バイパス国坂トンネルの貫通式がありました。

これは名古屋から豊橋、浜松へ向かう道路です。一日も早い全線開通が望まれています。豊川区間が残されています。

国土交通省により平成19

年に蒲郡・豊川区間が事業化された際には、供用開始は約10年後との希望的観測がありました。残念ながらその時期を越えようとしていません。



蒲郡、豊川両市長の貫通会見

- ・ **\* 12月議案**
- ・ みどり保育園の園舎と工  
作物、立木を豊橋市の宝  
光福祉会へ無償譲渡する

- ・ 鹿島こども園の園舎と工  
作物、立木を豊橋市の明  
睦学園に無償譲渡する

**\* 12月補正予算**

92億5,610万円増額

(支出ベース)

- ・ ふるさと蒲郡応援寄付金  
2億円を4億円の予想に
- ・ 教育費追加 就学援助  
955万3千円  
(計31億4,888万3千円)
- ・ たけしま新能事業  
250万円
- ・ モーターボート競走事業  
売上予想725億円を  
825億円に増額